

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年2月16日 (2012.2.16)

【公表番号】特表2010-518118(P2010-518118A)

【公表日】平成22年5月27日 (2010.5.27)

【年通号数】公開・登録公報2010-021

【出願番号】特願2009-549256(P2009-549256)

【国際特許分類】

A 0 1 N	47/34	(2006.01)
A 0 1 N	47/02	(2006.01)
A 0 1 N	51/00	(2006.01)
A 0 1 N	43/56	(2006.01)
A 0 1 P	7/02	(2006.01)
A 0 1 N	37/18	(2006.01)
A 0 1 N	37/52	(2006.01)
A 0 1 N	37/06	(2006.01)
A 0 1 N	53/08	(2006.01)
A 0 1 N	25/04	(2006.01)
A 0 1 N	25/10	(2006.01)
A 6 1 K	31/175	(2006.01)
A 6 1 K	31/415	(2006.01)
A 6 1 K	31/4439	(2006.01)
A 6 1 K	31/341	(2006.01)
A 6 1 K	31/136	(2006.01)
A 6 1 K	47/22	(2006.01)
A 6 1 K	47/16	(2006.01)
A 6 1 K	47/14	(2006.01)
A 6 1 K	47/28	(2006.01)
A 6 1 K	47/20	(2006.01)
A 6 1 K	47/10	(2006.01)
A 6 1 K	47/44	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	47/38	(2006.01)
A 6 1 K	47/32	(2006.01)
A 6 1 P	33/14	(2006.01)

【 F I 】

A 0 1 N	47/34	G
A 0 1 N	47/02	
A 0 1 N	51/00	
A 0 1 N	43/56	D
A 0 1 P	7/02	
A 0 1 N	37/18	Z
A 0 1 N	37/52	
A 0 1 N	37/06	
A 0 1 N	53/00	5 0 8 C
A 0 1 N	25/04	1 0 1
A 0 1 N	25/10	
A 6 1 K	31/175	
A 6 1 K	31/415	

A 6 1 K 31/4439
A 6 1 K 31/341
A 6 1 K 31/136
A 6 1 K 47/22
A 6 1 K 47/16
A 6 1 K 47/14
A 6 1 K 47/28
A 6 1 K 47/20
A 6 1 K 47/10
A 6 1 K 47/44
A 6 1 K 47/34
A 6 1 K 47/38
A 6 1 K 47/32
A 6 1 P 33/14

【手続補正書】

【提出日】平成23年1月20日(2011.1.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

6週間を超える期間、非ヒト温血動物における外部寄生生物の外寄生を予防または処置する方法であって、

外部寄生生物駆除剤を含む組成物を該外部寄生生物駆除剤の通常用量の約1.5～6倍の用量で該温血動物に局所投与する工程を包含する、方法。

【請求項 2】

前記期間は8～20週間である、請求項1に記載の方法。

【請求項 3】

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾン、フィプロニル、イミダクロプリド、ピリプロール、ジノテフラン、またはそれらの混合物である、請求項1または2に記載の方法。

【請求項 4】

前記動物はイヌまたはネコである、請求項1、2、または3に記載の方法。

【請求項 5】

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾンである、請求項1～4のいずれか1項に記載の方法。

【請求項 6】

前記動物はイヌであり、前記用量は体重1kgあたりメタフルミゾン約35～120mgである、請求項5に記載の方法。

【請求項 7】

前記用量は体重1kgあたりメタフルミゾン約35～100mgである、請求項6に記載の方法。

【請求項 8】

前記用量は体重1kgあたりメタフルミゾン約40～80mgである、請求項6に記載の方法。

【請求項 9】

前記組成物はアミトラズをさらに含む、請求項5～8のいずれか1項に記載の方法。

【請求項 10】

前記動物はネコであり、前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 6 0 ～ 2 4 0 m g である、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 1 1】

前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 7 0 ～ 1 6 0 m g である、請求項 1 0 に記載の方法。

【請求項 1 2】

前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 8 0 ～ 1 6 0 m g である、請求項 1 0 に記載の方法。

【請求項 1 3】

前記外部寄生生物駆除剤はフィプロニルであり、前記用量は体重 1 k g あたりフィプロニル約 1 0 ～ 5 0 m g である、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 1 4】

前記用量は体重 1 k g あたりフィプロニル約 1 5 ～ 3 5 m g である、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 1 5】

前記組成物はメトプレンをさらに含む、請求項 1 3 または 1 4 に記載の方法。

【請求項 1 6】

前記外部寄生生物駆除剤はイミダクロプリドであり、前記用量は体重 1 k g あたりイミダクロプリド約 1 5 ～ 6 0 m g である、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 1 7】

前記用量は体重 1 k g あたりイミダクロプリド約 2 0 ～ 5 0 m g である、請求項 1 6 に記載の方法。

【請求項 1 8】

前記組成物はベルメトリンをさらに含む、請求項 1 6 または 1 7 に記載の方法。

【請求項 1 9】

前記外部寄生生物駆除剤は、単位用量で、該外部寄生生物駆除剤の通常用量の 1 . 5 ～ 5 倍の濃度である、請求項 1 ～ 1 8 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 2 0】

前記組成物は 2 6 % ～ 4 0 % w / v のメタフルミゾンを含む、請求項 1 ～ 1 2 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 2 1】

前記組成物は約 3 0 % w / v メタフルミゾンを含む、請求項 2 0 に記載の方法。

【請求項 2 2】

前記組成物の動物体重あたりの体積は 0 . 1 m l / k g ～ 1 m l / k g である、請求項 1 ～ 2 1 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 2 3】

前記組成物は架橋剤、界面活性剤、または担体溶媒の少なくとも 1 つをさらに含む、請求項 1 ～ 2 2 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 2 4】

前記組成物は約 3 0 % w / v のメタフルミゾン、ジメチルスルホキシド、および γ -ヘキサクトンを含む、請求項 2 3 に記載の方法。

【請求項 2 5】

重量 / 体積ベースで、

(a) 約 5 % ～ 約 4 0 % の外部寄生生物駆除剤と、

(b) 約 5 % ～ 約 2 5 % の架橋剤と、

(c) 約 0 % ～ 約 1 5 % の界面活性剤と、

(d) 約 5 % ～ 約 8 0 % の担体溶媒または溶媒混合液と、

を含む組成物を前記温血動物に局所投与する工程を含み、

該外部寄生生物駆除剤は該外部寄生生物駆除剤の通常用量の約 1 . 5 ～ 5 倍の用量である、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 26】

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾンである、請求項 25 に記載の方法。

【請求項 27】

前記組成物はアミトラズをさらに含む、請求項 26 に記載の方法。

【請求項 28】

前記担体溶媒は γ -ヘキサラクトンを含む、請求項 25～27 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 29】

前記担体溶媒は N, N-ジエチル-m-トルアミドをさらに含む、請求項 28 に記載の方法。

【請求項 30】

前記担体溶媒は 1-メトキシ-2-酢酸プロピルをさらに含む、請求項 28 または 29 に記載の方法。

【請求項 31】

前記担体溶媒はオイカリプトールをさらに含む、請求項 28～30 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 32】

前記架橋剤はジメチルスルホキシド (DMSO) である、請求項 25～31 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 33】

重量対体積ベースで、

(a) 26%～約 40% のメタフルミゾンと、

(b) 約 4%～約 25% の架橋剤と、

(c) 約 0%～約 15% の界面活性剤と、

(d) 約 5%～約 70% の担体溶媒または溶媒混合液と、

を含む、組成物。

【請求項 34】

メタフルミゾンが重量対体積ベースで約 30% で存在する、請求項 33 に記載の組成物。

【請求項 35】

前記架橋剤はアルキルメチルスルホキシド、ジメチルスルホキシド (DMSO)、デシルメチルスルホキシド、テトラデシルメチルスルホキシド、ピロリドン、2-ピロリドン、N-メチル-2-ピロリドン、N-(2-ヒドロキシエチル)ピロリドン、ラウロカブラム、溶媒、アセトン、ジメチルアセトアミド、ジメチルホルムアミド、およびテトラヒドロフルフリルアルコールからなる群から選択される、請求項 33 または 34 に記載の組成物。

【請求項 36】

前記架橋剤は L-アミノ酸、ジメチルスルホキシド (DMSO)、および脂肪酸からなる群から選択される、請求項 33 または 34 に記載の組成物。

【請求項 37】

前記界面活性剤はアルコールアルコキシレート界面活性剤、ノニルフェノールエトキシレート、アニオン性またはカチオン性界面活性剤、および非イオン性界面活性剤からなる群から選択される、請求項 33～36 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 38】

前記担体溶媒は化合物または組成物とともに投与される希釈剤、補助薬、賦形剤、防腐剤、およびビヒクルからなる群から選択される、請求項 33～37 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 39】

前記担体溶媒は石油、動物油、植物油、ピーナッツ油、大豆油、鉱油、およびゴマ油からなる群から選択される、請求項 38 に記載の組成物。

【請求項 40】

前記担体溶媒は γ -ヘキサラクトンを含む、請求項 38 に記載の組成物。

【請求項 41】

N, N-ジエチル-m-トルアミド、オイカリプトール、ジメチルイソソルビド、アジピン酸ジイソプロピル、および 1-メトキシ-2-酢酸プロピルからなる群から選択された第 2 の担体溶媒をさらに含む、請求項 40 に記載の組成物。

【請求項 42】

重量対体積ベースで、27%～40%メタフルミゾン、約10%の架橋剤ジメチルスルホキシド、および約45%～約60%の担体溶媒 γ -ヘキサラクトンを含む、請求項 33 に記載の組成物。

【請求項 43】

メチルパラベン、プロピルパラベン、チメロソール (thimerosal)、および EDTA からなる群から選択された防腐剤をさらに含む、請求項 33～42 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 44】

高分子剤をさらに含む、請求項 33～43 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 45】

前記外部寄生生物駆除剤は 100～500 mg/ml の濃度で存在する、請求項 33～44 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 46】

前記組成物の全体積は約 13 ml 未満である、請求項 33～45 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 47】

コロイド状二酸化シリコン、エチルセルロース、メチルセルロース、メタクリル酸エステル共重合体、カルボキシ化酢酸ビニルターポリマー、ポリビニルプロピレン (PVP) / 酢酸ビニル共重合体、ポリビニルメチルエーテル、ポリ (ビニルメチルエーテル/無水マレイン酸、ポリビニルメチルエーテル/無水マレイン酸共重合体のエチルまたはブチルエステル、ならびに PVM/MA 共重合体のエチルまたはブチルエステルからなる群から選択された高分子剤をさらに含む、請求項 33～46 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 48】

アミトラズをさらに含む、請求項 33～47 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 49】

温血動物における外部寄生生物の外寄生を予防または処置するためのキットであって、重量/体積ベースで、

(a) 約 5%～約 40% の外部寄生生物駆除剤と、

(b) 約 5%～約 25% の架橋剤と、

(c) 約 0%～約 15% の界面活性剤と、

(d) 約 5%～約 80% の担体溶媒または溶媒混合液と、

を含む外部寄生生物駆除剤の局所単位用量製剤を含み、

該単位用量は該外部寄生生物駆除剤の通常用量と比較して約 1.5～5 倍の量の外部寄生生物駆除剤を含む、キット。

【請求項 50】

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾン、フィプロニル、イミダクロプリド、ピリプロール、ジノテフラン、またはそれらの混合物である、請求項 49 に記載のキット。

【請求項 51】

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾンであり、前記動物はイヌであり、前記単位用量は前記組成物を投与する該イヌの体重 1 kg あたりメタフルミゾン約 30 mg～約 120 mg を含む、請求項 50 に記載のキット。

【請求項 52】

前記製剤はアミトラズをさらに含む、請求項 51 に記載のキット。

【請求項 5 3】

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾンであり、前記動物はネコであり、前記単回用量は前記組成物を投与する該ネコの体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 6 0 m g ～約 2 4 0 m g を含む、請求項 5 0 に記載のキット。

【請求項 5 4】

前記外部寄生生物駆除剤はイミダクロプリドであり、前記動物はネコまたはイヌであり、前記単回用量は前記組成物を投与する該ネコまたは該イヌの体重 1 k g あたりイミダクロプリド約 1 5 m g ～約 1 0 0 m g を含む、請求項 5 0 に記載のキット。

【請求項 5 5】

前記動物はイヌであり、前記製剤はペルメトリンをさらに含む、請求項 5 4 に記載のキット。

【請求項 5 6】

前記外部寄生生物駆除剤はフィプロニルであり、前記動物はネコまたはイヌであり、前記単回用量は前記組成物を投与する該ネコまたは該イヌの体重 1 k g あたりフィプロニル約 1 0 m g ～約 1 0 0 m g を含む、請求項 5 0 に記載のキット。

【請求項 5 7】

前記動物はイヌであり、前記製剤はメトプレンをさらに含む、請求項 5 6 に記載のキット。

【請求項 5 8】

前記単位用量は、約 6 週間を超える期間、前記温血動物において前記外部寄生生物の外寄生の予防または処置に有効である、請求項 4 9 , ～ 5 7 のいずれか 1 項に記載のキット。

【請求項 5 9】

6 週間を超える期間にわたり温血動物における外部寄生生物の外寄生を処置または予防するための局所投与用薬剤の製造において、外部寄生生物駆除剤を含む組成物の使用であって、該外部寄生生物駆除剤が該外部寄生生物駆除剤の通常用量の約 1 . 5 ～ 6 倍の用量で存在する、使用。

【請求項 6 0】

6 週間を超える期間にわたり温血動物における外部寄生生物の外寄生を処置または予防するための、外部寄生生物駆除剤を該外部寄生生物駆除剤の通常用量の約 1 . 5 ～ 6 倍の用量で含む局所用組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

本発明の好ましい実施形態では、例えば以下が提供される：

(項目 1)

6 週間を超える期間、温血動物における外部寄生生物の外寄生を予防または処置する方法であって、

外部寄生生物駆除剤を含む組成物を該外部寄生生物駆除剤の通常用量の約 1 . 5 ～ 6 倍の用量で該温血動物に局所投与する工程を包含する、方法。

(項目 2)

前記期間は 8 ～ 2 0 週間である、項目 1 に記載の方法。

(項目 3)

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾン、フィプロニル、イミダクロプリド、ピリプロール、ジノテフラン、またはそれらの混合物である、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 4)

前記動物はイヌまたはネコである、項目 1、2、または 3 に記載の方法。

(項目 5)

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾンである、項目 1～4 のいずれか 1 項に記載の方法。

(項目 6)

前記動物はイヌであり、前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 3 5 ～ 1 2 0 m g である、項目 5 に記載の方法。

(項目 7)

前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 3 5 ～ 1 0 0 m g である、項目 6 に記載の方法。

(項目 8)

前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 4 0 ～ 8 0 m g である、項目 6 に記載の方法。

(項目 9)

前記組成物はアミトラズをさらに含む、項目 5～8 のいずれか 1 項に記載の方法。

(項目 1 0)

前記動物はネコであり、前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 6 0 ～ 2 4 0 m g である、項目 5 に記載の方法。

(項目 1 1)

前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 7 0 ～ 1 6 0 m g である、項目 1 0 に記載の方法。

(項目 1 2)

前記用量は体重 1 k g あたりメタフルミゾン約 8 0 ～ 1 6 0 m g である、項目 1 0 に記載の方法。

(項目 1 3)

前記外部寄生生物駆除剤はフィプロニルであり、前記用量は体重 1 k g あたりフィプロニル約 1 0 ～ 5 0 m g である、項目 1～4 のいずれか 1 項に記載の方法。

(項目 1 4)

前記用量は体重 1 k g あたりフィプロニル約 1 5 ～ 3 5 m g である、項目 1 3 に記載の方法。

(項目 1 5)

前記組成物はメトプレンをさらに含む、項目 1 3 または 1 4 に記載の方法。

(項目 1 6)

前記外部寄生生物駆除剤はイミダクロプリドであり、前記用量は体重 1 k g あたりイミダクロプリド約 1 5 ～ 6 0 m g である、項目 1～4 のいずれか 1 項に記載の方法。

(項目 1 7)

前記用量は体重 1 k g あたりイミダクロプリド約 2 0 ～ 5 0 m g である、項目 1 6 に記載の方法。

(項目 1 8)

前記組成物はペルメトリンをさらに含む、項目 1 6 または 1 7 に記載の方法。

(項目 1 9)

前記外部寄生生物駆除剤は、単位用量で、該外部寄生生物駆除剤の通常用量の 1 . 5 ～ 5 倍の濃度である、項目 1～1 8 のいずれか 1 項に記載の方法。

(項目 2 0)

前記組成物は 2 6 % ～ 4 0 % w / v のメタフルミゾンを含む、項目 1～1 2 のいずれか 1 項に記載の方法。

(項目 2 1)

前記組成物は約 3 0 % w / v メタフルミゾンを含む、項目 2 0 に記載の方法。

(項目 2 2)

前記組成物の動物体重あたりの体積は 0 . 1 m l / k g ～ 1 m l / k g である、項目 1～2 1 のいずれか 1 項に記載の方法。

(項目 2 3)

前記組成物は架橋剤、界面活性剤、または担体溶媒の少なくとも1つをさらに含む、項目1～22のいずれか1項に記載の方法。

(項目 2 4)

前記組成物は約30% w/vのメタフルミゾン、ジメチルスルホキシド、およびγ-ヘキサラクトンを含む、項目23に記載の方法。

(項目 2 5)

重量/体積ベースで、

(a) 約5%～約40%の外部寄生生物駆除剤と、

(b) 約5%～約25%の架橋剤と、

(c) 約0%～約15%の界面活性剤と、

(d) 約5%～約80%の担体溶媒または溶媒混合液と、

を含む組成物を前記温血動物に局所投与する工程を含み、

該外部寄生生物駆除剤は該外部寄生生物駆除剤の通常用量の約1.5～5倍の用量である、項目1～4のいずれか1項に記載の方法。

(項目 2 6)

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾンである、項目25に記載の方法。

(項目 2 7)

前記組成物はアミトラズをさらに含む、項目26に記載の方法。

(項目 2 8)

前記担体溶媒はγ-ヘキサラクトンを含む、項目25～27のいずれか1項に記載の方法。

(項目 2 9)

前記担体溶媒はN, N-ジエチル-m-トルアミドをさらに含む、項目28に記載の方法。

(項目 3 0)

前記担体溶媒は1-メトキシ-2-酢酸プロピルをさらに含む、項目28または29に記載の方法。

(項目 3 1)

前記担体溶媒はオイカリプトールをさらに含む、項目28～30のいずれか1項に記載の方法。

(項目 3 2)

前記架橋剤はジメチルスルホキシド(DMSO)である、項目25～31のいずれか1項に記載の方法。

(項目 3 3)

重量対体積ベースで、

(a) 26%～約40%のメタフルミゾンと、

(b) 約4%～約25%の架橋剤と、

(c) 約0%～約15%の界面活性剤と、

(d) 約5%～約70%の担体溶媒または溶媒混合液と、

を含む、組成物。

(項目 3 4)

メタフルミゾンが重量対体積ベースで約30%で存在する、項目33に記載の組成物。

(項目 3 5)

前記架橋剤はアルキルメチルスルホキシド、ジメチルスルホキシド(DMSO)、デシルメチルスルホキシド、テトラデシルメチルスルホキシド、ピロリドン、2-ピロリドン、N-メチル-2-ピロリドン、N-(2-ヒドロキシエチル)ピロリドン、ラウロカブラム、溶媒、アセトン、ジメチルアセトアミド、ジメチルホルムアミド、およびテトラヒドロフルフリルアルコールからなる群から選択される、項目33または34に記載の組成物。

(項目 3 6)

前記架橋剤は L-アミノ酸、ジメチルスルホキシド (DMSO)、および脂肪酸からなる群から選択される、項目 3 3 または 3 4 に記載の組成物。

(項目 3 7)

前記界面活性剤はアルコールアルコキシレート界面活性剤、ノニルフェノールエトキシレート、アニオン性またはカチオン性界面活性剤、および非イオン性界面活性剤からなる群から選択される、項目 3 3 ~ 3 6 のいずれか 1 項に記載の組成物。

(項目 3 8)

前記担体溶媒は化合物または組成物とともに投与される希釈剤、補助薬、賦形剤、防腐剤、およびビヒクルからなる群から選択される、項目 3 3 ~ 3 7 のいずれか 1 項に記載の組成物。

(項目 3 9)

前記担体溶媒は石油、動物油、植物油、ピーナッツ油、大豆油、鉱油、およびゴマ油からなる群から選択される、項目 3 8 に記載の組成物。

(項目 4 0)

前記担体溶媒は γ -ヘキサラクトンを含む、項目 3 8 に記載の組成物。

(項目 4 1)

N, N-ジエチル-m-トルアミド、オイカリプトール、ジメチルイソソルビド、アジピン酸ジイソプロピル、および 1-メトキシ-2-酢酸プロピルからなる群から選択された第 2 の担体溶媒をさらに含む、項目 4 0 に記載の組成物。

(項目 4 2)

重量対体積ベースで、27%~40%メタフルミゾン、約10%の架橋剤ジメチルスルホキシド、および約45%~約60%の担体溶媒 γ -ヘキサラクトンを含む、項目 3 3 に記載の組成物。

(項目 4 3)

メチルパラベン、プロピルパラベン、チメロソール (thimerosal)、および EDTA からなる群から選択された防腐剤をさらに含む、項目 3 3 ~ 4 2 のいずれか 1 項に記載の組成物。

(項目 4 4)

高分子剤をさらに含む、項目 3 3 ~ 4 3 のいずれか 1 項に記載の組成物。

(項目 4 5)

前記外部寄生生物駆除剤は 100 ~ 500 mg/ml の濃度で存在する、項目 3 3 ~ 4 4 のいずれか 1 項に記載の組成物。

(項目 4 6)

前記組成物の全体積は約 13 ml 未満である、項目 3 3 ~ 4 5 のいずれか 1 項に記載の組成物。

(項目 4 7)

コロイド状二酸化シリコン、エチルセルロース、メチルセルロース、メタクリル酸エステル共重合体、カルボキシル化酢酸ビニルターポリマー、ポリビニルプロピレン (PVP) / 酢酸ビニル共重合体、ポリビニルメチルエーテル、ポリ (ビニルメチルエーテル / 無水マレイン酸、ポリビニルメチルエーテル / 無水マレイン酸共重合体のエチルまたはブチルエステル、ならびに PVM / MA 共重合体のエチルまたはブチルエステルからなる群から選択された高分子剤をさらに含む、項目 3 3 ~ 4 6 のいずれか 1 項に記載の組成物。

(項目 4 8)

アミトラズをさらに含む、項目 3 3 ~ 4 7 のいずれか 1 項に記載の組成物。

(項目 4 9)

温血動物における外部寄生生物の外寄生を予防または処置するためのキットであって、重量 / 体積ベースで、

(a) 約 5% ~ 約 40% の外部寄生生物駆除剤と、

(b) 約 5% ~ 約 25% の架橋剤と、

(c) 約 0 % ～ 約 15 % の界面活性剤と、

(d) 約 5 % ～ 約 80 % の担体溶媒または溶媒混合液と、

を含む外部寄生生物駆除剤の局所単位用量製剤を含み、

該単位用量は該外部寄生生物駆除剤の通常用量と比較して約 1.5 ～ 5 倍の量の外部寄生生物駆除剤を含む、キット。

(項目 50)

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾン、フィプロニル、イミダクロプリド、ピリプロロール、ジノテフラン、またはそれらの混合物である、項目 49 に記載のキット。

(項目 51)

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾンであり、前記動物はイヌであり、前記単位用量は前記組成物を投与する該イヌの体重 1 kg あたりメタフルミゾン約 30 mg ～ 約 120 mg を含む、項目 50 に記載のキット。

(項目 52)

前記製剤はアミトラズをさらに含む、項目 51 に記載のキット。

(項目 53)

前記外部寄生生物駆除剤はメタフルミゾンであり、前記動物はネコであり、前記単回用量は前記組成物を投与する該ネコの体重 1 kg あたりメタフルミゾン約 60 mg ～ 約 240 mg を含む、項目 50 に記載のキット。

(項目 54)

前記外部寄生生物駆除剤はイミダクロプリドであり、前記動物はネコまたはイヌであり、前記単回用量は前記組成物を投与する該ネコまたは該イヌの体重 1 kg あたりイミダクロプリド約 15 mg ～ 約 100 mg を含む、項目 50 に記載のキット。

(項目 55)

前記動物はイヌであり、前記製剤はペルメトリンをさらに含む、項目 54 に記載のキット。

(項目 56)

前記外部寄生生物駆除剤はフィプロニルであり、前記動物はネコまたはイヌであり、前記単回用量は前記組成物を投与する該ネコまたは該イヌの体重 1 kg あたりフィプロニル約 10 mg ～ 約 100 mg を含む、項目 50 に記載のキット。

(項目 57)

前記動物はイヌであり、前記製剤はメトプレンをさらに含む、項目 56 に記載のキット

。

(項目 58)

前記単位用量は、約 6 週間を超える期間、前記温血動物において前記外部寄生生物の外寄生の予防または処置に有効である、項目 49、～ 57 のいずれか 1 項に記載のキット。

(項目 59)

6 週間を超える期間にわたり温血動物における外部寄生生物の外寄生を処置または予防するための局所投与用薬剤の製造において、外部寄生生物駆除剤を含む組成物の使用であって、該外部寄生生物駆除剤が該外部寄生生物駆除剤の通常用量の約 1.5 ～ 6 倍の用量で存在する、使用。

(項目 60)

6 週間を超える期間にわたり温血動物における外部寄生生物の外寄生を処置または予防するための、外部寄生生物駆除剤を該外部寄生生物駆除剤の通常用量の約 1.5 ～ 6 倍の用量で含む局所用組成物。

本発明の他の目的、特徴、および利点は、以下の詳細な記載により明らかとなる。しながら、詳細な記載および具体例は単なる例示を目的として本発明の好適な実施形態を示すものであり、この詳細な記載により当業者には本発明の精神および範囲内での各種変更および改変が明白であることは言うまでもない。